社楽 SHA RAKU

神奈川県立川崎図書館 が所蔵する
全国有数の〈**社史コレクション**〉を
さらに活用していただくため、
社史の使い方や、社史の楽しさ、
社史情報などをお届けしていきます。

2025/10

Vol.109

社史で1970年大阪万博を知る

令和7年4月13日から10月13日までの184日間、大阪市の夢洲で「2025年日本国際博覧会」(以下、「大阪・関西万博」)が開催されました。

「万国博覧会」では、世界の国々や企業が、文化と産業の成果を展示します。今回の万博でも、数多く日本の企業が参加し、最先端の技術を披露しました。

参加した企業の社史に、「大阪・関西万博」のことが記載されるのは、まだ先の話だと思いますが、日本では、昭和45年にも「日本万国博覧会」(以下、「大阪万博」)が開催されています。55年前の「大阪万博」は、社史にどのように記載されているのでしょうか。気になったので、調査してみました。

まずは、「大阪万博」の基本情報について、阪急電鉄の『**75年のあゆみ　記述編**』(1982年刊)によると、「人類の進歩と調和」をテーマに大阪の千里丘陵で昭和45年3月15日から9月13日まで開催されたとあります。

期間中の入場者数は、およそ6421万人。大盛況ぶりがうかがえる箇所として、「夏休みも終わり、閉幕まであと10日と迫った9月5日、この日は当社にとっては、万国博輸送のすべてを凝縮しきった日であった。」とあります。入場者数が開幕以来の最高の人出となり、輸送能力をはるかに上回ったが、乗客の完全輸送という使命を果たすため、最終電車がその務めを終えたのは午前3時を過ぎていたそうです。

そんな「大阪万博」の”第一号”を、多くの企業が目指していたようです。自社が第一号だと社史に記載している複数の企業と、その展示内容を紹介します。

『**ワコール物語〔新版〕**』(1979年刊)では、「万国博の受付けは、昭和四十三年四月一日から開始された。(中略)朝くらいうちから並んで”万国博参加第一号”の名乗りをあげた。一番乗りを競うのは、どうやら日本人の好みらしく(～以下略)」とあります。インターネットが普及していなかった時代は、列に並び対面で申し込みが行われていたようです。

ワコールが出展した「ワコール・リッカーミシン館」では、人類普遍の「愛」をテーマとし、「エキスポ・ウェディング」が行われ、約50倍の競争率の中55組のカップルが式を挙げました。

『**日本瓦斯協会史**』(1976年刊)でも、各出展企業がPR合戦をしている中、「国内出展契

(裏面へつづく)

（表面から続く）
約第1号として初弾を放ち、大大的にニュース欄をにぎわしたことはPR効果満点であった。」とあります。

日本瓦斯協会が出展した「ガスパビリオン」では、テーマを「笑いの世界」と定め、底抜けに明るい画風であるミロの壁画、題名「無垢の笑い」を展示しました。大阪万博終了後「ミロの壁画は予定通り大阪府に引き渡され」とありますが、現在は、国立国際美術館に所蔵されています。

『三洋電機三十年の歩み』（1980年刊）では、「この開催が決定されると、当社は率先参加を表明、参加申込み第一号としてサンヨー館の建設を発表した。」とあります。

三洋電機が出展した「サンヨー館」では、人間洗たく機「ウルトラソニック・バス」が有名ですが、**『三洋電機 アーカイブス』**（2014年刊）のDVDには、当時の写真や映像が収録されています。

「大阪万博」を支えた企業として、建築関係の企業も見ていきたいと思います。

今年、「大阪万博」のシンボルと言える「太陽の塔」が重要文化財（建造物）に指定されました。太陽の塔を含むお祭り広場や大屋根の施工は、大林組・竹中工務店・藤田組が共同企業体を構成して担当しました。

『大林組八十年史』（1972年刊）によると「ことに大林組の場合は、明治三十六年（一九〇三）の第五回内国勧業博覧会が社業興隆の基礎となった歴史もあり、万国博にそそぐ熱意は他社をしのぐものがあった。」そうです。

中でも大屋根の工事は「これほど大規模な屋根の建設は、世界の建築史上にも例がなく、基幹施設設計グループにとっては、「エキスポ'70」における最大の夢」でした。首相や皇太子殿下も視察するほど注目された大工事は、試行錯誤の末に見事成功を収め、完成後は開会式・閉会式などの主要な行事の舞台となりました。**『文明をつくる』**（1971年刊）では、岡本太郎氏が工事を振り返って「万国博では、大林組と私は協力者であった。」と語っています。

『竹中工務店九十年史』（1989年刊）には、竹中工務店もまた「意欲を燃やして積極的に万国博と取り組んでいた」ことが書かれています。その言葉通り、お祭り広場や大屋根だけではなくパビリオンの建設でも活躍し、日本国内館はもちろん、ソ連館や西ドイツ館など多くの外国館も手がけました。「それらが立ち並んだ通りは、通称「竹中通り」とまで呼ばれるほど」だったそうです 。

大盛況に終わった「大阪万博」ですが、**『大阪商工会議所百年史 本編』**（1979年刊）には、誘致から跡地までの記載があります 。「万国博の余剰金は最終決算で一九六億円余となり、それは、跡地管理にあたる万国博記念協会に一括してひきつがれ」、のちに大阪万博跡地の記念公園内に国立民族学博物館や国立国際美術館（2004年に中之島に移転）が開館したそうです。

今回の「大阪・関西万博」は、今後発行の社史にどのように記録されるのか楽しみですね。

（企画情報課　緒方・水田・宮島）

●問合せ先　神奈川県立川崎図書館　企画情報課
213-0012 川崎市高津区坂戸 3-2-1 かながわサイエンスパーク 西棟 2F
電話：044-299-7825 FAX：044-322-8878
https://www.klnet.pref.kanagawa.jp/kawasaki/index.html